

# 第6回包装近未来シンポジウム

— 容器包装の視点からプラスチック資源循環戦略を考える ～プラスチック問題の本質を知ろう～ —

- 開催日：平成31年3月14日(木)
- 会場：(公社)日本薬学会 長井記念ホール
- 主催：公益社団法人日本包装技術協会

## 開催にあたって

近年、海洋プラスチック問題が地球規模の新たな問題として台頭し、その解決に向けては全世界で取組んでいくことが求められています。欧州ではすでに使い捨て製品への規制が進み、日本でも対策強化に向けて“プラスチック資源循環戦略”に対する検討が始まりました。この海洋ごみの問題には、消費者も大きな関心を示しており、包装分野においても、容器包装をはじめとするプラスチックのより持続可能な使用や、新しい技術や素材の開発及び普及と共に、従来の3Rへの取組みの一層の強化が求められています。

今回は、このような状況を鑑み、プラスチックに関連したいろいろな分野からの専門の方々をお迎えし、プラスチック問題の本質について考えることに焦点を当てたシンポジウムを開催致します。

本シンポジウムが、次世代包装戦略を考える機会となり、その取組みへの指針や対策等に役立って頂ければ幸いです。

## 講演者・パネリストの紹介

### ■原田 幸明(ハラダ コウメイ)氏

一般社団法人サステナビリティ技術設計機構 代表理事  
1979年 東京大学大学院工学系研究科金属工学専門課程博士課程修了  
1980年～2017年 物質・材料研究機構(旧科学技術庁金属材料技術研究所)  
2018年～ 同 名誉研究員  
2017年～ サステナビリティ技術設計機構代表理事  
著書：「よくわかる都市鉱山開発」日刊工業新聞社

### ■高田 秀重(タカダ ヒデシゲ)氏

東京農工大学 農学部 教授  
1984年 東京都立大学大学院理学研究科 修士課程修了  
1986年 東京農工大学農学部環境保護学科 助手  
1997年 東京農工大学農学部環境資源科学科 助教授  
2007年 東京農工大学農学部環境資源科学科 教授  
有資格 理学博士  
著書 「環境汚染化学」(水川・高田、丸善出版)

### ■岸村 小太郎(キシムラ コタロウ)氏

日本プラスチック工業連盟 専務理事  
1979年3月 北海道大学大学院工学研究科修士課程修了(応用化学専攻)  
1979年4月 三井石油化学工業(株)(現 三井化学(株))入社  
機能性ポリオレフィンの研究・開発等に從事  
1995年8月 独立行政法人 理化学研究所 出向(1998～2000年 旧科学技術庁に勤務)  
2001年10月 三井化学(株) 復職  
2013年4月 日本プラスチック工業連盟に事務局長として着任  
2015年5月より現職  
著書 「プラスチック海洋ごみ問題への取組」  
水環境学会誌 第40巻(A)第10号(2017)  
「海洋プラスチック問題への対応」プラスチックエージ 第65巻 1月号(2019)

### ■稲川 義則(イナガワ ヨシノリ)氏

花王株式会社 包装容器開発研究所 所長  
1986年 花王(株) 生産技術本部に入社  
1995年 包装容器開発研究所に転籍  
2007年 包装容器開発研究所 室長  
2019年 包装容器開発研究所 所長

### ■藤木 哲也(フジキ テツヤ)氏

株式会社 カネカ R&D企画部 兼 新規事業開発部 幹部職  
1986年3月 広島大学大学院工学研究科(工業化学専攻)博士課程前期修了  
同年4月 鐘ヶ淵化学工業(現カネカ)入社 生物化学研究所配属  
以降、動物細胞或いは微生物を用いた物質生産研究、免疫研究に従事  
2001年 生分解性樹脂生産菌の育種研究に従事  
以降 生分解性樹脂に関する研究や開発業務に従事

### ■有田 俊雄(アリタ トシオ)氏 (企画委員)

有田技術士事務所 所長  
日本パルプ工業(株)(現王子製紙(株))、ダイヤパッケージング(株)(現 三菱商事パッケージング(株))、(株)パッケージング・ストラテジー・ジャパン社長を経て、2015年以降、現職。  
2005年米国包装殿堂入り。Institute of Packaging Professionals(USA)会員、International Packaging Press Organization(IPPO)名誉会員。  
グローバル・パッケージング・コンサルタントとして、先端技術探索、市場調査、技術提携 等、企業間の橋渡し役を務める。「生涯・包装人」として、「食品ロス削減に向けた包装の役割」、「2030年包装未来予測」を提唱中。東京大学・工学部・応用化学科卒業。

### ■後藤 敏彦(ゴトウ トシヒロ)氏 (企画委員)

NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事  
認定NPO法人環境経営学会会長、NPO法人日本サステナブル投資フォーラム理事・最高顧問、(一社)グリーンファイナンス推進機構理事、(一社)グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事など。  
環境省事業//環境情報開示基盤整備事業WG座長/環境コミュニケーション大賞コーディネーター・審査委員など複数委員会の座長・委員を務める。  
元大手損保会社勤務、元GRI運営委員・理事、東京大学法学部卒。  
著書：「ISO26000実践ガイド」(2011 共著、中央経済社)他多]

### ■住本 充弘(スミモト ミツヒロ)氏 (企画委員)

住本技術士事務所 所長  
2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタント活動に入る。世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサルタント活動や国内企業のコンサルタント活動を続けている。  
日本技術士会会員、技術士包装物流グループ会員、日本包装学会会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士会会員  
技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

## プログラム

時 間	テ ー マ	講 演 者
10:00   11:00	<p><b>「プラスチック問題とサーキュラー・エコノミー」</b></p> <p>昨年ISOでサーキュラー・エコノミーが国際規格化の検討に入ることが決まり、今や世界的なものになろうとしている。言葉上は日本の循環型社会と差異がないように見えるが、日本の循環型社会が現行経済の枠内での廃棄物等の問題解決を目指すのに対して、既存の物質・製品を徹底的に利用した循環システムを作り上げることで経済の活性化をもたらそうというのがCEの特長である。そこで重視されるものは、使用済みを含めた既存物に残されている「残存価値」を徹底して利用できる経済システムの構築であり、プラスチックに対しても残存価値を生かすプラスチックの利用形態にいかにか転換していくかということが問われる。</p>	<p>一般社団法人 サステナビリティ技術設計機構 代表理事</p> <p>原田 幸明 氏</p>
11:10   12:10	<p><b>「プラスチックによる海洋汚染と使い捨てプラスチックの削減」</b></p> <p>陸上での廃棄物管理から溢れたプラスチックは海洋へ流入・微細化し、海洋生態系全体に汚染が広がっている。生物に取り込まれプラスチックは分解されない異物として影響を及ぼすだけでなく、添加剤や吸着性の汚染物質を生体に運び込み、化学汚染の負荷を増大させている。海洋の持続可能な利用の観点から、海洋へのプラスチックの流入を削減するための対策が世界的に進められている。リサイクルにも手間とコストがかかり、石油ベースのプラスチックの焼却は実質的な温室効果ガスの発生・温暖化につながることから、使い捨てプラスチックの削減を軸に、バイオマスベースプラスチックへの転換、製品デザインや流通方式の変革による省包装化が必要である。</p>	<p>東京農工大学 農学部 教授</p> <p>高田 秀重 氏</p>
13:10   13:40	<p><b>「業界から見たプラスチック問題への対応」</b></p> <p>プラスチックの主要用途である容器包装。プラスチック製容器包装は食の安全の確保や、物流における環境負荷の削減等の面で私たちの暮らしに大きく貢献してきた。しかし、容器包装を中心とした使用済みプラスチック製品による海洋汚染問題が近年国際的に大きな課題になっている。また、この問題を背景の一つとして、政府による我が国のプラスチック資源循環戦略の策定も進められている。日本プラスチック工業連盟が進めている海洋プラスチック問題への取り組みや、業界としてのプラスチック資源循環戦略の策定について紹介するとともに、今後の製品開発やリサイクルのあるべき姿を考える。</p>	<p>日本プラスチック工業連盟 専務理事</p> <p>岸村 小太郎 氏</p>

### 企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 有田 俊雄 氏 有田技術士事務所 所長
- 後藤 敏彦 氏 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事（その他NPO代表 委員多数）
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長

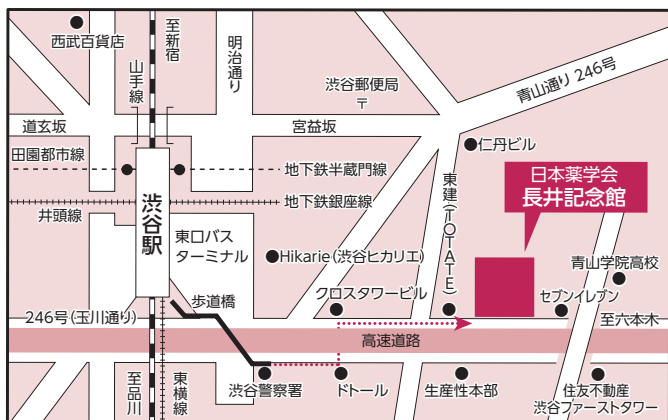
時 間	テ ー マ	講 演 者
13:50   14:20	<p><b>「花王(株)のプラスチック容器資源循環戦略」</b></p> <p>現在海洋プラスチック問題が世界的な問題となっている。過去プラスチック容器を使い捨ててきた生活文化のゆがみが現在起きている。花王は1990年代より、製品に使用するプラスチックを極力減らす努力をしてきた。特に詰替え（フィルム容器）による本品の再利用は樹脂量削減に大きな効果をもたらす。しかしながらこの詰替え文化は日本のみで海外には普及していない。花王はグローバルにこのフィルム容器を広げていくことを目的に2018年10月に花王のプラスチック容器宣言を発表している。本講演においては最初にフィルム容器の優位性を説明し、次に花王のプラスチック容器宣言の内容について説明をする。また今後の資源循環社会を目指して行くためにはどうするかを説明していく。</p>	<p>花王株式会社 包装容器開発研究所 所長 稲川 義則 氏</p>
14:30   15:00	<p><b>「海洋生分解性を有するカネカ生分解性ポリマーPHBH™のご紹介」</b></p> <p>ポリヒドロキシアルカン酸（以下PHA）はエネルギー貯蔵物質として微生物の菌体内で高分子として生産される熱可塑性樹脂の1種です。PHAは主原料として再生可能資源であるバイオマス（糖や植物油等）から生産されることから、地球温暖化の原因の1つとされる二酸化炭素の発生抑制に繋がるとしてその実用化が期待されてきました。また一般的にPHAは好氣的条件下および嫌氣的条件下においても良好に生分解されますが、他の生分解性樹脂と異なり海中においても良好な生分解性を示します。本講演では、PHAの例として当社が事業化検討を進めているカネカ生分解性ポリマーPHBHの生分解性等を中心に紹介します。</p>	<p>株式会社 カネカ R&amp;D企画部 兼 新規事業開発部 幹部職 藤木 哲也 氏</p>
15:10   16:40	<p><b>パネルディスカッション</b></p> <p><b>『容器包装の視点からプラスチック資源循環戦略を考える』</b></p> <p><b>【パネリスト】※予定</b></p> <p>一般社団法人サステナビリティ技術設計機構 代表理事 日本プラスチック工業連盟 専務理事 花王株式会社 包装容器開発研究所 所長 株式会社 カネカ R&amp;D企画部 兼 新規事業開発部 幹部職 有田技術士事務所 所長 NPO法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 住本技術士事務所 所長</p>	<p>原田 幸明 氏 岸村小太郎 氏 稲川 義則 氏 藤木 哲也 氏 有田 俊雄 氏(企画委員) 後藤 敏彦 氏(企画委員) 住本 充弘 氏(企画委員)</p>

## 開催要領

- **日時**：平成31年3月14日(木) 10:00~16:40
- **会場**：(公社)日本薬学会 長井記念ホール  
東京都渋谷区渋谷2-12-15  
日本薬学会長井記念館B2F
- **参加費**：会員 20,520円(消費税8%、テキスト代含む)  
\*同時に3名以上でお申込みの場合には  
割引価格として1名16,740円  
一般 28,080円(消費税8%、テキスト代含む)
- **定員**：100名

## 会場案内

会場：長井記念ホール  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15  
日本薬学会長井記念館B2F TEL.03-3406-3326



- JR渋谷駅(東口)より高樹町方面へ高速道路3号線沿い徒歩10分
- 東急東横線、東急田園都市線、京王井の頭線、東京メトロ銀座線・半蔵門線・副都心線の渋谷駅より徒歩10分

## 申し込み方法

- 本紙申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込みください。  
協会HPからのお申込みも出来ます。  
協会HP：<http://www.jpi.or.jp>
- 申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。
- 開催1週間前からの参加費の払い戻しは致しません。  
申込みされた方がご都合の悪い場合、代理の方の出席は差し支えありません。(当日、名刺をご提出いただきます)

### お問合せ並びにお申込み先

公益社団法人日本包装技術協会  
包装近未来シンポジウム係 担当：竹内  
〒104-0045  
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F  
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970  
e-mail: takeuchi@jpi.or.jp

#### 【個人情報の取り扱いについて】

1. 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

## 第6回包装近未来シンポジウム参加申込書

公益社団法人日本包装技術協会 竹内行 FAX. 03-3543-8970

No. \_\_\_\_\_

会社名					
所在地	(〒 )				
電話				FAX	
参加者	氏名			所属 役職	e-mail
	氏名			所属 役職	e-mail
	氏名			所属 役職	e-mail